

保健体育科 (保 健) 学 習 指 導

岡山県立岡山一宮高等学校 理数科
令和5年11月9日(木) 第5校時

1年8組
研修室

指導者 鷹取 純子

1 単元名
応急手当と心肺蘇生法

2 単元の目標

- (1) 心肺蘇生法においては、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動対外式除細動器）の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解し、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができるようにすること。（知識・技能）
- (2) 習得した知識や技能を実践し、他者からの評価を受け改善していこうとする。（思考・判断・表現）
- (3) グループ活動に積極的に取り組み、心肺蘇生法の手技について自己評価のみならず他者の行動を評価し互いに行動を改善していこうとする。（主体的に学習に取り組む態度）

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 応急手当の意義について資料を見たり読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている	① 日常的な応急手当、心肺蘇生法について、分析したり評価したりするなどしている	① グループ実習に積極的に取り組み、手技を理解しようとしている

4 指導上の立場

- 単元観 市民による応急手当がなされれば、救命率は上昇し、その後の社会復帰も早くなることから、速やかに適切な応急手当を行う必要がある。それには正しい手順や方法があり、時間の経過とともに身体が損なわれていく場合があることから、率先して実践できるように手技を習得する必要がある。
- 生徒観 理数科1年8組40名。活発でコミュニケーション能力の高い生徒も多く、授業中の指導者からの発問にも積極的に答えることができる。健康・安全に関する知識は、教科書を通して身につけるだけでなく、自ら積極的に実習に取り組むことを期待したい。
- 指導観 市民による応急手当がなされると救命率の上昇、社会復帰の早期に実現されることなどを理解させ、積極的にグループでの活動に参加させたい。実習班に分かれての活動が主となるが、各班を巡回しその都度助言・示範し正しい技術を習得させたい。

5 指導と評価の計画（全4時間）

(1) 内容のまとまりの指導計画

第一次「応急手当と心肺蘇生法の理解」	1時間
第二次「実技（グループ実習）」	3時間

(2) 第2次の指導計画

時	ねらい・学習活動	点重	評価規準及び評価方法
1	[ねらい] 日常的な応急手当について理解し、不測の事態に対応できるようになる [学習活動] 様々な応急手当について説明を聞き、講義内容をプリントに記入することができる	知	知①：プリントの記述
2 ~ 4	[ねらい] 心肺蘇生法の手順を学ぶとともに、グループで実習を行うことにより実際の応急手当の場面と同じ状況で行動できるようになる [学習活動] 班に分かれ心肺蘇生の手順にしたがって交互に実習を行う	主	思：①Googleフォーム 主：①行動の観察

6 本時案 (第2次 第1時)

(1) 本時の目標

- 知識, 技能: 正しい胸骨圧迫の仕方を理解し、実践できる。
- 思考, 判断, 表現: 自己や他者の行動を観察し反復練習を改善しながら行える。
- 主体的に学習に取り組む態度: 積極的にコミュニケーションをとりながら実習に取り組むことができる。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
(生徒の立場) 0 本時の目標を確認する。(2)	(指導者の立場) 本時のねらいを伝える。	
目標:心肺蘇生法の手順を理解し、積極的に実習に取り組もうとする I 情報分析活用力、 V 垣根を越える力		
1 AEDに関する動画を視聴する 2 各班に分かれて、ダミー人形、AEDトレーナーの確認をする 3 各班で心肺蘇生の方法を確認しながら実習を行う	AEDの動画を視聴させる 各班に分かれて、実習を行えるよう支援する 胸骨圧迫、AEDの取り扱い方を説明し示範をみせ、行えるよう支援する 適宜グループを巡回し指導助言を行う	グループでの活動に積極的に取り組もうとする意欲がある。 (主体的に学習に取り組む態度) <観察>
まとめ: 心肺蘇生法の手技を正しく理解し実践するために必要なことがわかる		
4 本時の振り返りを含め、次回への課題を知る		学習したの内容を振り返る (思考・判断・表現) <Googleフォーム>

◎「おおむね満足できる」状況 (B) と判断する生徒の姿の例

主体的に、グループのメンバーとコミュニケーションをとることができ、応急手当の練習を行うことができる。

(3) 準備物

説明用スライド, クロムブック, 教科書